学校番号	111

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２	年次	３
使用教科書	「新日本史Ａ　改訂版」　（実教出版）						
副教材等	「プロムナード日本史」　（浜島書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「歴史は何の役に立つのか？」という問いかけに対し、１年間を通してそれを考え、自分自身の答えを出してみる。
・２年次での世界史Ａの学習成果を生かして、特に東アジア史の中に日本近現代史を位置づけるとともに、日本の地域史を通して自分の足下から日本史の全体像もみていく。これらの学習と平行して、現在の日本の諸事象や諸課題を歴史的に考察する。
・歴史の変化を「なぜ」と問う姿勢から、歴史事象に向き合う。

２　学習の到達目標

・近代から現代に続く日本史像を活字史料、絵画史料、諸データや遺跡・遺物、地図などを読み取り、考察する。
・現代に生きる文化や習慣、伝統などがどのように形成されてきたのかを考える。
・広く国際的視野に立ち、世界史と関連づけて日本の近現代史像を追究する。
・上記の課題学習を通して国際社会に生きる日本国民の自覚と、そのあり方について構想していく。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本の近代が現代日本の政治や社会の起点となること、特に現在の平和・民主主義・人権などの現代日本の諸課題の歴史的展開をながめ、国際社会に生きる日本国民のあり方を構想し、同時にその自覚を養う。理型選択者の授業なので産業技術や科学技術の発展にもふれる。	現在の日本社会に生きている伝統や文化・生活習慣、政治経済のしくみで、とりわけ近代にその起源があるものを発見し、その価値や発展の経過や現在及び未来への課題は何かを考える。一方で現在との差異とその理由なども考える。	活字史料・民俗資料・絵画史料、映像資料・遺跡・建造物や実物教材などを通じて歴史事象や人物の行動、政治の展開、経済活動、生活習慣や文化の実態を読み取ることができる。	左記のａｂｃの活動、とりわけｃの活動を通して、歴史事項、特に教科書記載の事項をことばの暗記だけでなく、多面的に理解させる。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート ノート提出	定期考査 ワークシート ノート提出	定期考査 ノート提出
	振り返りシート（プリント及びノート）	レポート及び討論・発表・報告	史料（資料）の読み取りのレポート及び発表	基本的歴史事項のまとめ(プリント及びノート)
	※「主題学習」とは主題を設定して行う学習活動で、適切な時間を確保して行う。また、ノートには板書事項だけでなく、調べたことや思考の過程なども記録させる。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	世界と日本	①近代国家と社会の形成	○	○	○	○	a:天保の改革の失敗、日本人と外国人の漂流民を通した世界の動き、ペリーの「黒船」に関する伝聞や史料、地図、絵画などを活用して「開国」授業の導入と前提にする。 b:開国から明治政府成立とその政策までの過程を、尊王攘夷派・佐幕派・大名・下級武士・民衆その他様々な立場の視点から、年表や諸史料（資料）・データ等を使って考察。その際に欧米列強とアジアの動きを関連させる。 c:造幣局・大阪砲兵工廠や富岡製糸場に代表される官営工場を例に取り、資料・絵画・映像資料を使い、その実態や導入された近代技術などを考察・発表する。 d:幕末維新、明治新政府の成立を年表（作成）・地図を活用して確認していく。	定期考査 ワークシート ノート提出
		①二つの戦争と大日本帝国	○	○	○	○	a:自由民権運動とこれまでの士族反乱や江戸時代の百姓一揆との違いを考えてみる。 b:大阪紡績会社などの具体的な工場を例に取り、これまでの工場とはどこが異なり斬新なのか、データ・絵画史料などを駆使して考察・発表する。 c:八幡製鉄所などの産業遺跡、明治初期の学校の建物、文明開化期の錦絵などを活用して、近代化の実相を確認していく。 d:明治政府の中央集権化政策～自由民権運動～大日本帝国憲法制定～日清日露戦争までの政治過程を中心に教科書・年表を使い事実確認をする。	定期考査 ワークシート ノート提出

2学期	世界と日本	①帝国とデモクラシー ②デモクラシーの展開と帝国の変容 ③アジアの戦争と第二次世界大戦	○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:なぜ「世界大戦」と呼ばれるのか考え、関心を高める。関東大震災の実態と近年の災害や防災問題なども関連づけてみる。大正期の社会運動の広がりと、その背景となる文化や都市・農村での生活の変化を当時の雑誌や映像・資料を通して考察。東アジアの動向を年表・地図・資料などから考察する。他に原爆投下と現在の核兵器問題を関連づけて興味・関心を喚起させる。 b: 世界恐慌と日本の対策は？満州事変と日中戦争はどのように引き起こされ戦われたのか？アジア太平洋戦争の実態は？戦争で国民生活はどのようになったか？などを考え、報告・発表等を行う。 c: 原爆投下の原因・被害・被爆の実態を資料・地図から考察。 d:教科書・資料集をから大正～昭和前期の政治史・経済誌の展開を概括する。15 年戦争の日本への影響も教科書・年表・資料から確認していく。	定期考査 ワークシート ノート提出
3学期	世界と日本	①現代日本の源流 ②冷戦のなかの経済成長 ③現代の日本	○ ○	 ○ ○	○ ○	○ ○	a:一例として、2020 年予定と 1964 年開催の「東京オリンピック」の時期の世相を比較させるなどして、戦後史においても現在と当時の歴史的変化を確認できる事例を取り上げるなどして、現代史学習への入口とし、意欲・興味・関心を喚起する。 b:これからの日本が現在・未来の世界においてどんな役割を果たしていくのか、戦後の歴史と関連させて考察。 c:現在の日常生活の様式や身の回りの物品を例に取り、その普及が戦後にあるものを見つけ、その普及以前の状況も考え、経済発展や生活の向上を眺める。 d: b と関連づけ、1 年間を通して、歴史を学んだ意義について自分自身の答えを出してみる。	定期考査 ワークシート ノート提出

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。